



保健所からのお知らせ

2026年第34週における千葉県のインフルエンザの定点当たり患者報告数が1.80となり、国がインフルエンザの流行開始の目安とする1.00を上回りました。

今後、更なるインフルエンザ患者報告数の増加が見込まれるため、手洗いや咳エチケットなどの感染症対策に努めましょう！



全数把握対象疾患

松戸保健所管内で報告のあった疾患のみ掲載しています。
全数報告集計表については、別添をご覧ください。

	2026年第34週～第35週		累計 (2026年第1週～2026年第35週)
2類感染症	結核	4	72
	腸管出血性大腸菌感染症	4	10
4類感染症	A型肝炎	1	1
	レジオネラ症	1	18
5類感染症	アメーバ赤痢	1	7
	カルバペネム耐性腸内細菌 目細菌感染症	1	4
	侵襲性肺炎球菌感染症	2	13
	梅毒	2	27
	播種性クリプトコックス症	1	2
	百日咳	1	21



定点把握対象疾患

上段：報告数

下段：定点当たり報告数（定点一か所から一週間にどの位の患者報告があったかの平均値）

前週比： ↓減少 →横ばい ↑増加

小児科
定点

疾病名	前週比	第35週	第34週
RSウイルス 感染症	↓	6	14
		0.55	1.27
咽頭結膜熱	↓	-	2
		-	0.18
A群溶血性 レンサ球菌 感染症	↑	23	15
		2.09	1.36
感染性胃腸炎	↑	70	53
		6.36	4.82
水痘	↓	1	7
		0.09	0.64
手足口病	↑	28	15
		2.55	1.36
伝染性紅斑	→	-	-
		-	-
突発性発疹	↑	5	1
		0.45	0.09
ヘルパンギーナ	↑	8	1
		0.73	0.09

急性
感染性
呼吸器
器

疾病名	前週比	第35週	第34週
インフルエンザ	↑	48	36
		2.4	1.8
新型コロナ ウイルス感染症	↑	40	14
		2	0.7
急性呼吸器 感染症（ARI）	↑	1458	1279
		72.9	63.95
急性出血性結膜炎	→	-	-
		-	-
流行性角結膜炎	→	-	-
		-	-

眼科

※急性呼吸器感染症（ARI）
咳嗽、咽頭痛、呼吸困難、鼻汁、鼻閉のいずれか1つ以上の症状を呈し、
発症から10日以内の急性的な症状であり、かつ医師が感染症を疑う外来症例



【松戸保健所管内居住結核新登録患者数】



【集団感染発生状況】

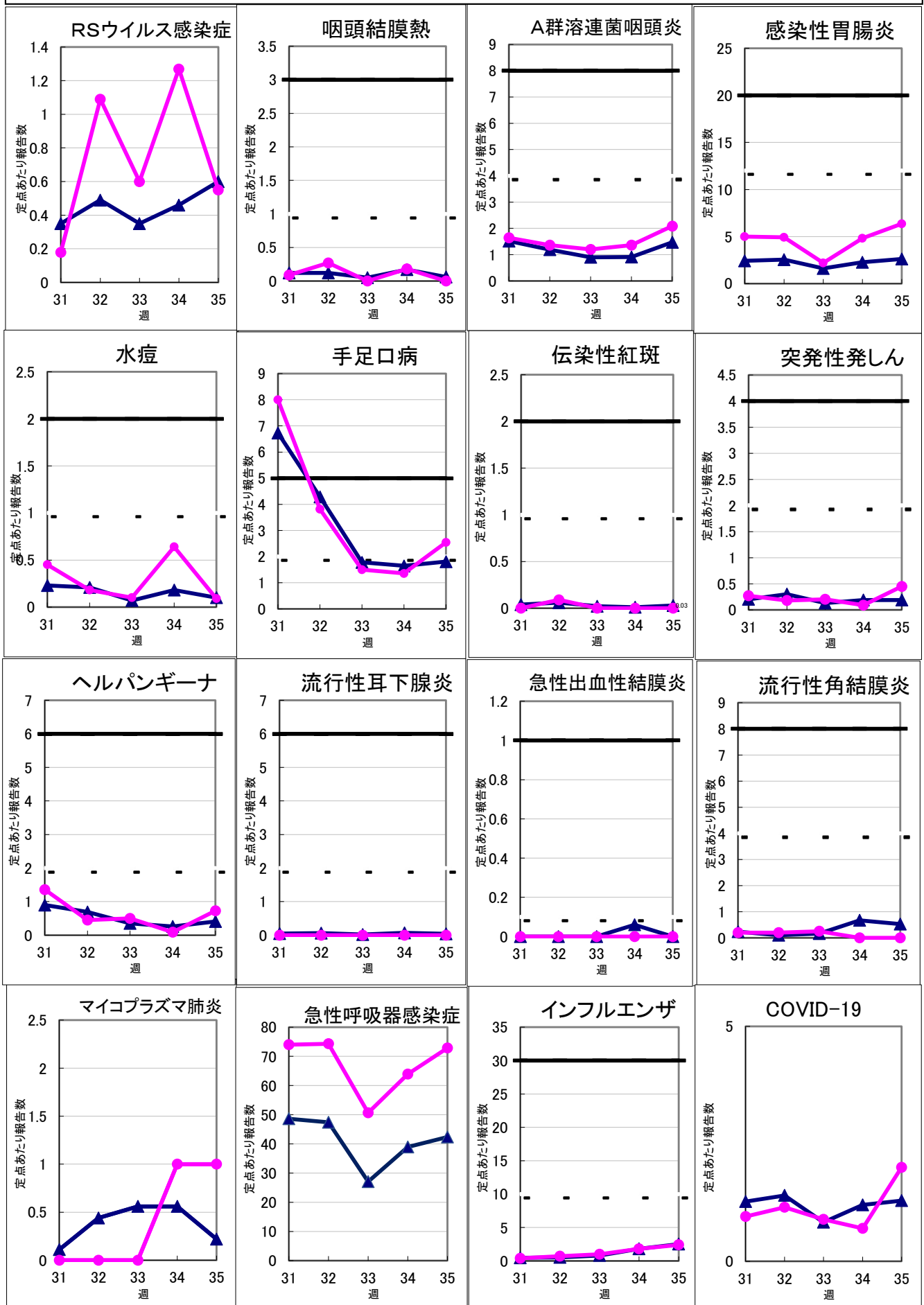
活動性結核（①～④）	
①喀痰塗抹陽性	3
②その他の結核菌陽性	0
③菌陰性その他	1
④活動性肺外結核	0
無症状病原体保有者 （潜在性結核感染症）	2

疾患名	報告数
手足口病	1件 （保育施設）

数値は報告の追加、取り下げ等により、今後変動することがあります。

松戸保健所管内の感染症発生動向（直近5週）

● 松戸保健所管内 ▲ 千葉県全体 — 警報基準値 - - - 終息基準値



インフルエンザの流行について

発生動向

2026年第34週（8月17日から8月23日）における千葉県インフルエンザの定点当たりの患者報告数が1.80となり、国がインフルエンザの流行開始の目安となる1.00を上回りました（図1）。

今後、更なるインフルエンザ患者報告数の増加が見込まれます。

インフルエンザとは

インフルエンザウイルスに感染することによっておこる病気です。

38℃以上の発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛など全身の症状が突然現れ、併せて一般的な風邪と同様にのどの痛み、鼻汁、咳などの症状も見られます。

小児ではまれに急性脳症を発症し、ご高齢の方や免疫力の低下している方では肺炎を伴うなど重症になることがあります。日本では例年12月から3月に流行シーズンを迎えることが多いです。

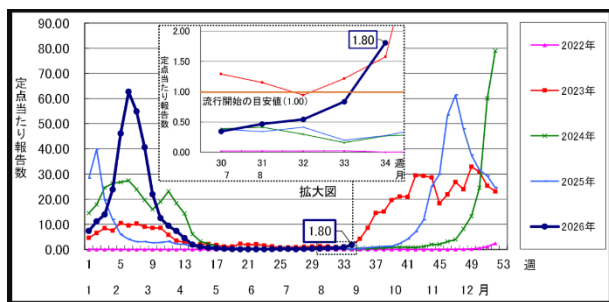


図1 県内のインフルエンザ定点当たり患者報告数（2022年から2026年第34週まで）
出典：インフルエンザの流行について（令和8年8月26日）／千葉県

以下のチェックリストを参考に、感染症予防対策に努めましょう！

① こまめな手洗い

② 十分な休養とバランスのとれた栄養摂取

③ 室内ではこまめに換気する

④ 人混みや繁華街への外出を控える

⑤ 適度な湿度の保持

⑥ ワクチン接種※

※ワクチンは例年10月から接種可能となります



腸管出血性大腸菌感染症について

発生動向

2026年第35週に千葉県内医療機関から13例の届出があり、本年の累計は96例です（図2）。第33週以降、診断別届出数が、過去5年間の平均と比較して、多くなっています。

感染症について

★潜伏期間

3～5日程度

★感染経路

経口感染：病原体に汚染された食品を摂取する

★原因菌

ベロ毒素を産生する大腸菌

→少ない菌数（100個程度）で感染が成立する

★症状

腹痛、水様便、血便など。無症状の場合もある

重症化すると溶血性尿毒症症候群（HUS）や脳症などの合併症を伴い、死亡することもある

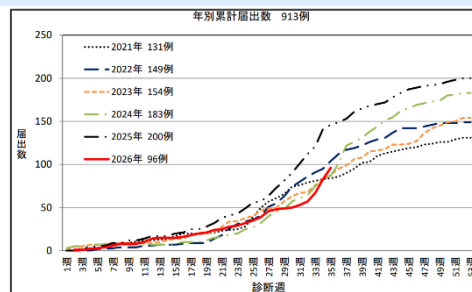


図2：2021年～2026年第35週 千葉県の腸管出血性大腸菌感染症
出典：wr2635.pdf

～食品を介した経口感染（食べ物から人への感染）を防ぐ～

① 食肉や未加熱の食肉調理品（メンチカツ、ハンバーグなど挽肉を使用した製品）
→ 中心部を75℃1分間以上加熱する

② 生肉に触った後の手指や調理器具
→ よく洗浄して消毒する

③ 生肉を取り分けるトングと焼きあがった肉を取り分けたり食べたりする箸
→ 使い分ける

手指を介した経口感染（人から人、動物から人への感染）を防ぐために、以下のタイミングで必ず石けんと流水で手を洗う！

① 調理する前

② 食事する前

③ 排便後

④ 下痢をした人の世話をした後

⑤ 牧場などで動物や柵、砂・土などに触れた後